

令和6年用ハウスきゅうり病害虫防除基準

発行：J A さがえ西村山
さがえ西村山野菜振興協議会

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

防除時期	対象病害虫名	RAC	防除方法 (収穫前使用日数/使用回数)	注意事項	
は種前	つる割病疫病(立枯性)		床土の消毒を行う。	1. 接ぎ木苗は定植の際、接ぎ木した部分に土をつけないよう注意する。	
	斑点細菌病	41	マイコシールド 1,500倍 (6.6g/10ℓ) [(は種前/1回)] を1~2時間種子浸漬する。		
	ネコセンチュウ	1B	ネマトリンエース粒剤を10a当たり20kg [(は種前又は定植前/1回)] を全面土壌混和する。		
育苗期	苗立枯病	32	タチガレン液剤 500倍 (20ml/10ℓ) [(は種直後/3回以内)] を1㎡当たり3ℓ土壌かん注する。		
	つる割病		かぼちゃ台木に接木を行なう。		
定植時	アブラムシ類	4A 4A	アクタラ粒剤5 を株当たり1g [定植時/1回] 植穴処理 スタークル粒剤 を株当たり2g [定植時/1回] 植穴土壌混和 } のいずれかを行う。	1. 茎葉、根に薬剤が直接触れないよう注意する。	
	斑点細菌病	M1	キノンドー水和剤40 600倍 (16.6g/10ℓ) [前日まで/5回以内] 発病前から10a当たり100~300ℓ散布する。		
生	つるあげ後	24,M1	カスミンボルドー 1,000倍 (10g/10ℓ) [前日まで/5回以内] を10a当たり100~300ℓ散布する。	1. 散布する時は葉害軽減のため必ずクレフノン100~200倍を加用するとともに、幼苗期、高温時、収穫間際の散布は避ける。	
	黒星病	1 M5,40	ベンレート水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ) [前日まで/3回以内] プロボーズ顆粒水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ) [前日まで/3回以内] } のいずれかを10a当たり100~300ℓ散布する。	1. 本病は17~18℃位の低温多湿の時に発生が多くなる。 2. つる先や幼果などの生長点にも十分散布する。	
	べと病 (褐斑病)	21,49	ゾーベックエンテクタSE 4,000倍 (2.5ml/10ℓ) [前日まで/2回以内]	のいずれかを10a当たり150~300ℓ散布する。	1. マルチをおこなう。 2. 薬剤は葉の裏まで丁寧に散布する。 3. ハウス内の換気を図り、過湿にならないように注意する。 4. ダコニール1000 はうどんこ病、褐斑病、灰色かび病、炭疽病、黒星病にも登録がある。 5. 褐斑病の発生する圃場ではベンコゼブ水和剤600倍 (16.6g/10ℓ) [前日まで/3回以内] を散布する。 6. ホライズンドライフロアブル、ストロビーフロアブルは同一成分とみなし耐性菌出現のため連用は避け、総使用回数は2回以内とする。 7. リドミルゴールドMZ は高濃度で使用すると葉害を生じる恐れがあるので、所定範囲の希釈倍率、使用方法を厳守する。
		M5	ダコニール1000 1,000倍 (10ml/10ℓ) [前日まで/12回以内]		
		21	ランマンフロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ) [前日まで/4回以内]		
		27,11	ホライズンドライフロアブル 2,500倍 (4g/10ℓ) [前日まで/3回以内]		
		M5,40	プロボーズ顆粒水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ) [前日まで/3回以内]		
	UN,M3,4	リドミルゴールドMZ 1,000倍 (10g/10ℓ) [前日まで/3回以内]			
	うどんこ病 (黒星病)	NC 7 M7,19 3 3UN,M3 11 M7	1. 茎葉散布法 カリグリーン 800倍 (12.5g/10ℓ) [前日まで/ー] アフエットフロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ) [前日まで/3回以内] ダイアメリットDF 1,000倍 (10g/10ℓ) [前日まで/2回以内] ラリー水和剤 5,000倍 (2g/10ℓ) [前日まで/5回以内] テーク水和剤 600倍 (16.6g/10ℓ) [前日まで/3回以内] ストロビーフロアブル 3,000倍 (3.3ml/10ℓ) [前日まで/3回以内] ベルコートフロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ) [前日まで/7回以内] 2. くん煙法 下記参照	のいずれかを発生初期から10a当たり150~300ℓ散布する。	1. 同一薬剤の連用、多数回散布はさける。 2. 土壌が乾燥し過ぎないように注意する。 3. EBI剤(ラリー水和剤、テーク水和剤、トリフミンジェット)は、耐性菌出現防止のため、総使用回数は2回以内とする。 4. ダイアメリットDFは褐斑病、灰色かび病、炭そ病、菌核病に登録がある。 5. テーク水和剤は灰色かび病、炭そ病にも登録がある。 6. ストロビーフロアブルは褐斑病、べと病、炭そ病にも登録がある。 7. ベルコートフロアブルは褐斑病、灰色かび病、菌核病にも登録がある。
		菌核病	2	1. 茎葉散布法 ロブラール500アクア 1,500倍 (6.6ml/10ℓ) [前日まで/4回以内] を発生初期から10a当たり100~300ℓ散布する。 2. くん煙法 下記参照	1. ハウス資材として近紫外線除去フィルムを使用する事により菌核病の発生を抑制することができる。 2. ロブラール500アクアは灰色かび病にも登録がある。
灰色かび病	9 7	1. 茎葉散布法 フルビカフロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ) [前日まで/4回以内] カンタスドライフロアブル 1,500倍 (6.6g/10ℓ) [前日まで/3回以内] 2. くん煙法 下記参照	のいずれかを10a当たり100~300ℓ散布する。	1. ハウス内の換気をはかり、過湿にならないように注意する。 2. ハウス資材として近紫外線除去フィルムを使用する事により灰色かび病の発生を抑制することができる。 3. カンタスドライフロアブルは褐斑病、菌核病にも登録がある。	
ハダニ類	25A 13 20B	1. 茎葉散布法 ダニサラバフロアブル 1,000倍 (10ml/10ℓ) [前日まで/2回以内] コテツフロアブル® 2,000倍 (5ml/10ℓ) [前日まで/3回以内] カネマイトフロアブル 1,000倍 (10ml/10ℓ) [前日まで/1回以内] 2. くん煙法 下記参照	のいずれかを10a当たり150~300ℓ散布する。	1. 薬剤は葉の裏まで丁寧に散布する。 2. コテツフロアブル®は、ウリハムシ、ミカンキイロアザミウマ、ウリノメイガにも登録がある。	
期	アブラムシ類	4A 3A 9B 29 -	1. 茎葉散布法 アクタラ顆粒水溶剤 3,000倍 (3.3g/10ℓ) [前日まで/3回以内] テルスターフロアブル® 4,000倍 (2.5ml/10ℓ) [前日まで/3回以内] チェス顆粒水和剤 5,000倍 (2g/10ℓ) [前日まで/3回以内] ウララDF 2,000倍 (5g/10ℓ) [前日まで/3回以内] エコピタ液剤 100倍 (100ml/10ℓ) [前日まで/ー] 2. くん煙法 下記参照	のいずれかを10a当たり150~300ℓ散布する。	1. 葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。 2. 合成ピレスロイド剤(テルスターフロアブル®, マブリックジェット®)は、抵抗性害虫出現回避のため同一ほ場における総使用回数は2回以内(くん煙剤を含む)とする。散布後の作業にもマスクを着用する。魚類に対する毒性が特に強いので注意する。 3. ウリノメイガの発生が多い場合は、ハチハチ乳剤® [収穫前日まで/2回以内]1,000倍(10ml/10ℓ)を使用してもよい。 4. アクタラ顆粒水溶剤、ハチハチ乳剤®は蚕毒が強いので注意する。 5. アブラムシ類の発生初期から防除を徹底する。
	コナジラミ類	4A 29	1. 茎葉散布法 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (5g/10ℓ) [前日まで/2回以内] ウララDF 2,000倍 (5g/10ℓ) [前日まで/3回以内] 2. くん煙法 下記参照	のいずれかを10a当たり150~300ℓ散布する。	1. スタークル顆粒水溶剤はアザミウマ類、アブラムシ類にも登録がある。 2. アプロード水和剤[前日まで/3回以内]1,000倍(10g/10ℓ)は、オンシツコナジラミ幼虫に登録がある。
	アザミウマ類	4A 30	モスピラン顆粒水溶剤® 2,000倍 (5g/10ℓ) [前日まで/3回以内] グレーシア乳剤 2,000倍 (5ml/10ℓ) [前日まで/2回以内]	を10a当たり100~300ℓ散布する。	1. モスピラン顆粒水溶剤®は、アブラムシ類、コナジラミ類にも登録がある。 2. モスピラン顆粒水溶剤®は、蚕毒が強いので注意する。

くん煙法

薬剤名	RAC	燃焼法	対象病害虫	使用量の目安	時期	回数	薬剤名	RAC	燃焼法	対象病害虫	使用量の目安	時期	回数
ロブラールくん煙剤®	2	自然式	灰色かび病・菌核病	300~400㎡当たり100g	前日まで	4回以内	モスピランジェット®	4A	自然式	アブラムシ類・コナジラミ類	400㎡当たり50g	前日まで	3回以内
トリフミンジェット®	3	自然式	うどんこ病	400㎡当たり50g	前日まで	5回以内	マブリックジェット®	3A	自然式	アブラムシ類・ハダニ類	400㎡当たり50g	前日まで	2回以内

【注意】 マブリックジェット®は眼に対して刺激性があるので煙が眼に入らないように注意し、散布後の作業にもマスクを着用する。眼に異常を感じた場合は直ちに水洗いし、眼科医の手当てを受けて下さい。

農薬の使用にあたっては、使用回数に加え、有効成分ごとの総使用回数も定められているので遵守する。

成分名	RAC	農薬名	使用回数	同一成分総使用回数	備考	成分名	RAC	農薬名	使用回数	同一成分総使用回数	備考
イプロジオン	2	ロブラール500アクア	4回以内	5回以内	種子粉衣1回は種後4回以内	ジノテフラン	4A	スタークル粒剤	1回	4回以内	育苗期・定植時合計1回以内 定植後株元散布1回以内 散布2回以内
		ロブラールくん煙剤®	4回以内					スタークル顆粒水溶剤	2回以内		
TPN	M5	ダコニール1000	12回以内	14回以内	土壌かん注2回以内 散布・くん煙他合計12回以内	マンゼブ	UN,M3,4	リドミルゴールドMZ	3回以内	3回以内	
	M5,40	プロボーズ顆粒水和剤	3回以内				3,UN,M3	テーク水和剤	3回以内		
アセタミプリド	4A	モスピラン顆粒水溶剤®	3回以内	5回以内	定植時の株元1回以内 定植後の株元1回以内 散布・くん煙他合計3回以内		UN,M3	ベンコゼブ水和剤	3回以内		
		モスピランジェット®	3回以内			4A	アクタラ粒剤5	1回			
イミノクタジン	M7,19	ダイアメリットDF	2回以内	7回以内		4A	アクタラ顆粒水溶剤	3回以内			
	M7	ベルコートフロアブル	7回以内								